

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520288

研究課題名(和文) ジョン・ディーの一次資料に関する発展的研究

研究課題名(英文) Further Research on John Dee's Writings and Manuscripts

研究代表者

横山 茂雄 (Yokoyama, Shigeo)

奈良女子大学・人文科学系・教授

研究者番号：10144726

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：英国エリザベス朝の学者ジョン・ディー(1527-1609)が、1582年から1587年にかけて協力者のエドワード・ケリー(1555-1597?)と共同でおこなった魔術作業を、彼らが遺した手稿群に依拠しつつ、詳細に分析する。特に、1583年から開示が開始された所謂『エノクの書』については、その複雑な開示方法を含めて、全容の解明に努めると共に、西欧ルネッサンス期の魔術、オカルティズムにおいて占める位置を明らかにしようとした。

研究成果の概要(英文)：Drawing upon the various manuscript records, this study analyzes in detail how the 'holy' knowledge was revealed to John Dee and Edward Kelley through their magical actions for the period from 1582 to 1587. It focuses on what is called The Book of Enoch, thereby trying to find out what position it holds in the context of Renaissance occult tradition.

研究分野：英文学

キーワード：ジョン・ディー エドワード・ケリー イギリス ルネッサンス 魔術 オカルティズム

1. 研究開始当初の背景

(1) エリザベス朝の学者ジョン・ディー John Dee (1527-1609) については、彼のあまりに多面的な活動のゆえに、いまだに評価が揺れ続けて、定まっていない。特に、彼がエドワード・ケリー Edward Kelley (1555-1597?) と共に 1582 年から 1587 年にかけておこなった魔術活動は、量が膨大であるのみならず内容が難解をきわめ、このことが評価の確定しない大きな理由となっている。

(2) 1960 年代から 70 年代初頭にかけてのフランセス・イエーツ Frances Yates による一連の著作は、ディーの評価に甚大な影響を与えたが、1980 年代後半以降、イエーツのルネッサンス史観そのものが厳しい批判に晒され、否定されることも多くなった。その流れのなかで、Nicholas Clulee の *John Dee's Natural Philosophy* (1988) や Christopher Whitby, *John Dee's Actions with Spirits* (1988) のような重要な研究や翻字作業が出現した。さらに、その延長線上で、Deborah Harkness, *John Dee's Conversation with Angels* (1999)、Stephen Clucas, ed., *John Dee* (2006) などの研究書、Benjamin Woolley, *The Queen's Conjurer: The Life and Magic of Dr Dee* (2001) などの伝記が刊行され、新たなディー像への模索が続けられた。

(3) 本研究代表者は、1990 年代後半からジョン・ディーの研究への取り組みを開始し、2009 年から 2011 年にかけては科学研究費補助金の基盤研究(C)「ジョン・ディーの一次資料の基礎的研究」(課題番号 21520253) によって、ディーの遺した魔術作業記録の手稿の研究をおこなった。同研究においては、とりわけ 1582 年春から 1583 年夏までの魔術作業に焦点を当て、手稿の綿密な調査を通じて、この時期のディーとケリーの活動をかなり明確にすることができた。本研究は、以上の研究を踏まえて、それをさらに発展深化させることを目標として着想された。

2. 研究の目的

(1) ジョン・ディー、及び、彼の共同作業者エドワード・ケリーの遺した魔術記録は、その内容面で難解をきわめるだけでなく、いまだ手稿のまま未翻字、未刊行のものが存在する。さらに、翻字刊行されている場合でも、厳密な校訂を経ていないものが少なくなく、テキストの信頼性に乏しい。

(2) したがって、本研究では、ディーとケリーが遺した魔術記録を、中核を成す『神秘の書』*Mysteriorum libri* だけでなく、関連する手稿、写本群をも含めて綿密に調査し、ディーとケリーの魔術作業の全容を可能な限り具体的に把握することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) ディーがケリーと協同でおこなった天使あるいは精霊の召喚作業の膨大な記録『神秘の書』は、一部は散逸したものの、大部分は

手稿として今も現存している。

(2) 『神秘の書』のうち、1583 年 5 月 28 日以降のディー直筆の手稿記録は、大英図書館 British Library において Cotton Appendix XLVI, 2 Vols として保存されている。なお、この記録は、既に 17 世紀に、メリック・カソーボン Meric Casaubon の編集によって、*A True and Faithful Relation of What Passed for Many Years between Dr. John Dee and Some Spirits* (1659) として上梓された(以下、同書を *TFR* と略記する)。

(3) いっぽう、1581 年から 1583 年 5 月 23 日までの記録は、大英図書館において Sloane MS 3188 として保存されている。これは 1988 年になって、Christopher Whitby, *John Dee's Actions with Spirits*, 2vols. としてようやく翻字された。同書は博士論文のタイプ原稿をファクシミリ印刷のかたちで小部数刊行されたものである(以下、同書を *AWS* と略記する)。

(4) 『神秘の書』関連に関連する重要な手稿としては、ディーの遺した Sloane MS 3191、Sloane MS 3199 ケリーの遺した Sloane MS 3189 などがある。また、ディーの所有していた古い写本、Sloane MS 8 や Sloane MS 313、ディー周辺の人物の遺した魔術手稿 Add. MS 36674 など重要である。これらはいずれも大英図書館において保存されている。

(5) ディーやケリーの手稿は、夥しい数の欄外書き込み、多くの図表、絵、数列などを含んでおり、*TFR* や *AWS* といった刊本のみを資料として用いるだけでは、両者の精霊召喚作業、魔術作業の全貌を捉えることは困難である。したがって、本研究では、以上の手稿、写本群を、大英図書館からマイクロフィルム及び電子スキファイルの形態で入手し、正確厳密なジョン・ディー研究を発展させる。

4. 研究成果

(1) 1583 年 3 月 24 日から、長期間にわたる『エノクの書』及び『ロガーの書』の開示が開始される。この開示方法は複雑をきわめており、*TFR* 及び *AWS* と照合しつつ、手稿 Sloane MS 3188、Cotton Appendix XLVI, 2 vols、Sloane MS 3191、Sloane MS 3189 を調査解析することで、その全体像の把握に努めた。

3 月 24 日の時点では、「書物」のヴィジョンが出現、これは 48 葉から成っていた。3 月 26 日には、再び「書物」のヴィジョンが出現、各葉の表裏に 49×49 の升目からなる方陣が記されていることが教示された。また、升目にしるされた未知の文字も開示された。これらの文字は、神の聖なる言語、いわゆるエノク語のアルファベットだとされる。アルファベットの名称、及び、ローマ字アルファベットとの対応関係も示された。エノク語のアルファベットについては、ジョヴァンニ・パンテオが 1530 年に公表した「エノク語のアルファベット」との類似は見られない。むしろ、ハインリヒ・コルネリウス・アグリッパが

1533年に公表した「太古の書法」の影響が窺えなくもないが、しかし、後者と顕著に類似しているわけではない。

3月29日の召喚作業では、『エノクの書』の第一葉表側方陣の第1行目に並ぶ49個の升のそれぞれに記された言葉が教示される。この際に、天使は言葉を構成する文字をその名称でひとつずつ教えていく。第1行目では、升目ひとつにつき最長の言葉は 'semelabugen' で11字、最短の言葉は 'a' で1字となる。3月31日の召喚作業で、第一葉表側の第2行目目が同様の手順で開示される。

第3行目以降は、書写方式が変更される。紙葉のヴィジョンの文字群を、ケリーが「視覚的」に読み取って音読、ディーがそれを書き取る方式になった。書写に際して、ケリーが文字単位で読み上げていったのか、あるいは、語単位でまるごと発音して、ディーがそれを記録したのかは、Sloane 3188の調査からも判然としなない。

48葉、総計96の方陣が開示された。これらの方陣はケリーによる浄書稿が残されており、それがSloane MS 3189である。

4月26日には、「聖なる台座」の詳細な図面が与えられている。TFRに掲げられた図版は、これのエノク文字の配列を誤って印刷したことが、Sloane 3188から明らかである。

1583年5月6日、『エノクの書』の書写作業は基本的に終了した。ただし、『エノクの書』の最終葉（あるいは第1葉）の開示については不明な点が多いが、Cotton Appendix XLVI, vol.1からは、これも最終的には開示されたと推測される。

1583年5月5日、『エノクの書』を本来のアルファベットで書かれた形態で書写するようとの命令が下る。これが『ロガーの書』であることは、Cotton Appendix XLVI vol.1の分析から明らかとなった。

『ロガーの書』の書写については、それが完成したのかどうかは、Cotton Appendix XLVI, 2 vols. の調査分析によっても判然としなかった。

『エノクの書』の方陣の文字列の配置の一部は、1582年3月29日に開示された方陣から引き出される天使たちの名前と密接に関連している。

(2) 1584年4月12日から「祈禱咒 (calling)」の開示が始まる。これらは最終的にディーによって、別途に手稿としてまとめられた (Sloane 3191 art. 1)。

『エノクの書』の方陣から得られる「祈禱咒」の文字群の開示方法は煩瑣複雑をきわめ、かつまた、不明な点が多い。升目すべてに番号を振る方式やグリッド方式ではなく、アルゴリズムによるものと推測されるが、Cotton Appendix XLVI, や vol.2 や Sloane 3191 の分析によっても、その点は詳らかにならなかった。

(3) Sloane MS 3189 に収録される方陣のなかで由来が不明だったもの幾つかあるが、これらは、ディーが所蔵していた中世後期頃の筆者不詳の写本 Sloane MS 8 に含まれた方陣の転写であり、『エノクの書』の着想の源泉について大きな示唆を与える。

(4) 1582年3月1日の召喚作業で開示された「神の印章 (Sigillum Dei)」は、その外周円の文字と配置がアルゴリズムを使用した複雑なものである。アルファベットの大文字、小文字の別、アルファベットに付された数字の位置などが、その鍵となっている。また、ヨハン・ロイヒリンのカバラ研究などの影響も受けている。その点では、ルネッサンスに勃興したキリスト教のカバラの枠内に定位できるが、しかしながら、いっぽうで、それは中世の魔術的伝統を継承する。この点は、ディーが所蔵していた中世の魔術写本 (Sloane MS 313) を検証することを通じて確認できた。同写本に掲げられた印章の図は、ディーの「神の印章」の着想の源を明らかにしている。

1582年3月の召喚作業で開示された文字を配する方陣も、同様の方陣が『ソロモンの鍵』などの「古い」タイプの魔術書に見出せることから、やはり中世の魔術的伝統を継承することが明らかになった。さらに、これらの方陣から引き出される素性不詳の天使の名前の幾つかも、他の「古い」タイプの魔術書に発見できた。

水晶を用いたスクライミングじたいが古代、中世以来の「古い」霊的技術であるが、ディーと航海術を通じて交流のあった人物がおそらくはディーに先行してスクライミングをおこなっていたことが明らかになった。すなわち、ジョン・デイヴィスがハンフリー・ギルバートとおぼしき人物とおこなった精霊召喚作業の記録が、手稿 Add. MS 36674 に遺されているからだ。この作業はスクライミングによっておこなわれているが、のみならず、その日付が1567年である点はきわめて注目に価する。ジョン・デイヴィスとハンフリー・ギルバートは共にイギリスの航海史に名をとどめる人物であって、ルネッサンス期の世界観を考察する上でも重要である。

(5) 1582年3月29日に開示された円内の七つの方陣は、その升目が数字とアルファベットを組み合わせたもので埋められており、これらから「善なる天使たち」の名前が引き出される。それらの名前などについて、ディーは別途に手稿を作成した (Sloane MS 3199)。

(6) 1587年4月から5月における cross-matching の命令の実行については、Cotton Appendix XLVI, や vol.2 における該当箇所抹消部分の検証から、ほぼ決定的な結論が得られた。

(7)ディーがケリーと共に起こった精霊召喚作業を時間軸に沿って詳細に分析し、それらを、開示された複雑な魔術システムと共に解析した学術的研究は、英米にもほとんど存在しておらず、本研究はその点では少なからぬ価値を有するだろう。

(8)本研究の成果の多くは、平成 27 年度に研究社出版(東京)より『神の聖なる天使たち』と題する大部の書物として刊行されることが決定しており、これによって、本研究は社会への還元の責務を果たせるだろう。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

横山茂雄、研究社、神の聖なる天使たち、2015, 420 頁

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

横山 茂雄 (YOKOYAMA, Shigeo)
奈良女子大学・人文科学系・教授
研究者番号：10144726

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：